

【ランチョンセミナー】

地域連携パスを活かす“脳卒中治療ガイドライン 2009”

広島大学病院 脳神経内科 大槻俊輔

広島県では脳卒中急性期から回復期・維持期までのつなぎ目なき治療・看護・リハビリを、いつでもどの地区でも行えるように県内共通パスを作成し、運用開始を始めました。急性期病院では、脳梗塞血栓溶解療法を、脳出血迅速降圧療法を導入します。梗塞巣や血腫拡大が止まり、神経徴候が安定すれば速やかにリハビリテーションが導入されます。嚥下状態に注意を払い、経口摂取栄養管理を行います。回復期ではさらに、再発予防のため降圧療法、脂質や血糖正常化療法が選択されます。“脳卒中治療ガイドライン 2009”がこの治療方策を合理的にすすめ、回復期と維持期のリハビリテーションが最善の条件で行えるように手伝います。この連携で初めて、脳卒中患者の回復をより良きものにします。